

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する公開情報

研究機関名：筑波メディカルセンター病院

倫理審査承認日：2023年8月9日
研究課題名： ドクターカー所有病院における D-Call Net の効果的な運用方法に関する多施設前向き観察研究 研究期間：倫理審査承認後～西暦 2023 年 3 月(自動延長は 2026 年 3 月 31 日)
研究対象： 本研究は、先進事故自動通報システム（D-Call Net）によって医師が現場出場し、研究参加施設に搬送され治療を受けた交通外傷事例を対象とします。交通事故発生からの時間経過（救急隊活動時間、ドクターカー活動時間）、ならびに、D-Call Net が無かった場合の救急隊のみの搬送状況を勘案し、予想した予後の状況を実際の予後と比較します。転帰の情報、救急隊活動時間、ドクターカー活動時間、意識レベル、血圧、呼吸数、外傷スコア、年齢、性別の情報を診療録より用います。介入や侵襲は伴いません。
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（ ） 上記材料の対象期間 西暦 年月～ 年月
意義・目的： 平成 30 年において、交通事故による死者数は 3,449 ¹⁾ 人となり、減少傾向にあるものの現在も多くの方が交通事故の被害に遭っています。自動車業界としては、交通事故死者数を低減させるため、様々な対策を講じており、事故を発生させない予防安全や、被害を低減させる衝突安全に関する研究をおこない、研究成果を市販車へ導入しているところですが、交通事故死者数をゼロにすることは未だできていません。そのため、事故後の救命効果を高めるために、先進事故自動通報システムに関する設備を導入しました。 欧州では先進事故自動通報システムよりも情報量が少ない事故自動通報システム（eCall）が導入され、国連法規 ²⁾ にもなっているが、日本では欧州や国連法規となっている事故自動通報システムでは、医師が現場出場するための情報が不足しているため、救命効果は限定的であると試算しています。そのため、国内向けには情報量を増やし、医師が現場出場できるような先進事故自動通報システム（D-Call Net）を構築したところであり、ドクターヘリ基地病院へ同システムを展開しています。 国内の救急医療体制としてはドクターヘリのみならず、ドクターカーも運用されており、先進事故自動通報システムの効果として、ドクターカーへの対応は期待できる点です。 そこで、本研究ではドクターカーが配備されている病院において、先進事故自動通報システムを構築し、運用をおこない、先進事故自動通報システムとドクターカーによる救命効果を検討することを目的とします。

方法：

診療記録より救急隊活動時間（現場到着時間、現場到着時間、傷病者接触時間、現発時間、医師接触時間）ドクターカー活動時間（現場到着時間、現場到着時間、傷病者接触時間、現発時間、医師接触時間、病院到着時間）、患者の年齢、性別、病院到着前と病院収容後の意識レベル、収縮期血圧、呼吸数、外傷スコア、退院後転出先、後遺症の有無などを調査します。研究実施に係る情報を取り扱う際には予め患者の個人情報とは無関係な番号を付して情報を管理します。患者の個人情報が院外へ漏れないように十分配慮します。調査期間中に書面にデータを入力し、日本自動車研究所所員に手渡します。提出されたデータは日本自動車研究所内のハードディスク内にデータを保存し、日本自動車研究所にて管理を行います。

なおこの研究への情報提供を希望されない場合には、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その患者様の情報は利用いたしません。その場合でも診療上の不利益が生じることはありません。

問い合わせ等の連絡先

筑波メディカルセンター病院 救急診療科

榎木愛登（代表番号 029-851-3511）